

## 2. 大学における学びについて知ろう

### 1 高校までと違う大学の「学び」

大学での「学び」は高校までと違う、ということをよく聞きます。たとえば、どんな講義を受けるかは自分が決めることができるため、時間割は自分で作成することになるとか、その結果、自由ではあるけれど、責任がつきまとうなど、聞かされていませんか。

一方で、学部・学科で固定化された授業もあり、あまり自由ではないことに気づきますし、抽象的な言い方で、何となく理解できるものの、具体的に良く解らないことになっていませんか。その「何となく」を、「何となく」ではないようにしてみましょう。

ところで突然ですが、次の問題（A群）を解いてください。

A群

$$6 + 4 = \square$$

$$2 + 8 = \square$$

$$5 + 5 = \square$$

$$9 - 4 = \square$$

$$7 - 2 = \square$$

$$6 - 1 = \square$$

あまりに簡単すぎて驚いたかもしれませんが、次は応用編？です。同じように、次の問題（B群）を解いてください。

B群

$$\square + \square = 10$$

$$\square + \square = 10$$

$$\square - \square = 5$$

$$\square - \square = 5$$

これも簡単すぎて、「大学生を馬鹿にするな！！」などという返答が返ってきそうです。でも、どこかで見たような問題ではありませんか。以前、大手学習塾がテレビコマーシャルで 放送していたものを、少し変形させてみました。でもこれだけでは、テレビコマーシャルを パクッたと言われかねませんので、さらに上級編??を作成しました。これは、少し難しいかもしれません。

次の四つの数字を、「加・減・乗・除」して「10」にしてください。解りにくいかもしれませんが、例題をあげてみましょう。

例題 「4・2・3・6」

答えの①  $6 \div 3 = 2$        $4 \times 2 = 8$        $8 + 2 = 10$

②  $3 - 2 = 1$        $4 \times 1 = 4$        $4 + 6 = 10$

C    5・8・2・6

①  $\square - \square = \square$

$\square \div \square = \square$        $\square 5 \times \square 2 = 10$

②  $\square - \square = \square$

$\square \times \square = \square$        $\square + \square = 10$

簡単な問題なのですが、でも、A群とB群・Cの違いに気づきましたか。そうです、A群は答えが「一つ」しかありませんが、B群とCは答えが複数あるのです。この違いこそ、高校までと、大学の「学び」の違いにも当てはまるのです。

高校まで、生徒は教科書に即して、先生方の授業を聞いて「おぼえ」、試験にはその「おぼえ」たことを答案用紙に回答したはずですが。そこに記された「回答」は、ほとんどが「一つ」であり、それが書けなければ「理解」していないと判断されました。いかにたくさんのおぼえ、いかにそれを答案用紙に反映させることができるかが問われていたといってもいいでしょう。

ところが、大学では先生方の授業を聞いて、「理解する」ことが求められます。そこで求められる回答は「一つ」とは限りません。複数の回答があり、その結果、同じ授業を聞いても、受講する学生（「生徒」ではありません。これも高校との違いかな！）によって、回答は異なることがあります。正解は複数存在することになります（もちろん、回答が「一つ」の場合もあります）。

それは、「正解」を導き出す過程が重視されるといっても良いでしょう。大学では、「正解」を得るための複数の導き方を「考える」ことが大切なのです。そのため、「導き方」は先生方が授業で話された「一つ」（あるいは複数話されることもあります）の方法とは限りません。それ以外

にも「導き方」はありますし、それを考える学生に対し、先生方はアドバイスする存在といっても過言ではありません。その結果、多様な考え方・視点を求め、さらにその前提としての多様な学び方を得ることが必要になります。

### 注意

ただし、基礎的、基本的な知識は当然求められます。それらは、複数の「回答」を導き出すための、基盤ともなるものですから、まさに「おぼえ」する必要があります。「加・減・乗・除」の意味が解らなければ、C群の答えを導き出すことはできませんし、「加・減」ができなければ、「乗・除」はできません。あるいは、弥生時代の次が古墳時代というような時代の変遷が解らなければ、歴史学習が成り立たないことはいまでもありません。

## 2 身に付けたい学力

### 〔1〕大学生の学力低下

入学早々の学生諸君には、耳の痛い話ですが、「大学生の学力低下」が叫ばれて久しいことを知っていますか。たとえば、『分数ができない大学生—21世紀の日本が危ない』<sup>注1)</sup>は、国公立大学の大学生を対象に実施した小中学校レベルの数学（算数）のテストによって明らかとなった学生の学力低下の実態から、警鐘を鳴らしていますし、近年では『週刊文春』<sup>注2)</sup>は「**THIS WEEK** 教育」という特集記事を組み、「自ら」を「じら」、「図る」を「ずる」と読む学生、「マイナス×マイナス＝プラス」を理解できない学生を紹介しています。

その背景に、18歳人口が減少するなかで大学進学率は上昇し、さらに大学の数そのものの増加があります。「大学全入時代」などという言葉も生まれました。もっとも、これは大学進学を希望する18歳人口と、全ての大学の入学定員の総計を単純に比較したものであり、進学しようとする生徒の進路先希望を計算していませんから、現実にはありえません。わが東北福祉大学も、皆さんが幾多の倍率をくぐり抜けて入学されたことは、私たち教員も知っておりますので、ご安心ください。

一方で、卒業後の就職を含む進路を考えると、やはり厳しい現実がまっています。では、社会は、あるいは東北福祉大学は、皆さんにどのような能力を期待しているのでしょうか。

注1) 岡部恒治・戸瀬信之・西村和雄編『分数ができない大学生—21世紀の日本が危ない』(東洋経済新報社、1999)

注2) 2010年5月20日号

#### 大学全入時代

文部科学省の諮問機関「中央教育審議会」が2004年から使い出した言葉。大学・短大への入学志願者数と入学者の総計が2007年度に同数になるとの試算がなされたことによる。実際は入学志願者が予想よりも増え、先延ばしになっている。

## 〔2〕社会・東北福祉大学が求める能力とは？

大学生の学力低下が指摘されるころ、文部科学省は大学教育（学士課程教育）の検討を中央教育審議会（「中教審」といいます）に諮問、2008年12月、中教審はその成果を答申としてまとめ、大学卒業までに学生が最低限身につけなければならない能力を「学士力」と定義しました。それらは、次のように大きく4点に分かれ、さらに細分化されています。

- ①知識・理解・・・異文化の理解・社会情勢や自然、文化への理解
- ②汎用的技能・・・コミュニケーション能力・情報活用力・論理的思考力・問題解決力
- ③態度・志向性・・・自己管理能力・チームワーク、リーダーシップ・倫理観・市民としての社会的責任・生涯学習力
- ④統合的な学習経験と創造的思考力・・・自らが立てた新たな課題を解決する能力

これより少し前、経済産業省も、わが国の経済活動等を担う人材の確保・育成の観点から、「職場等で求められる能力＝社会人基礎力」とは何かを検討する研究会を立ち上げ、

- ①前に踏み出す力・・・主体性・働きかけ力・実行力
- ②考え抜く力・・・課題発見力・計画力・創造力
- ③チームで働く力・・・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力

が必要かつ重要であることを指摘しています。

内容は多岐にわたりますが、「課題発見力」といい、「問題解決力」といい、自ら課題を見だし、それを解決する手段・能力の重要性を説いています。大学卒業後、社会（職場）生活を営むとき、「指示待ち」的姿勢では対応できないことが多々あります。情報・状況を把握し、それらを活用する、行動することが求められてくるものと思われれます。そうしたとき、主体的に、しかも計画性をもって実行する、あるいは実行できる能力はきわめて有為であることはいまでもありません。

もっとも、複雑化・高度化した社会のなかで、すべての課題・問題の解決を自分ひとりで行うとは限りません。いろいろな組織のなかで、チーム力で対応することも少なくないのです。そこでは、チームを構成する人びとと十分な意思疎通を図る必要があることはいまでもありません。

「発信力・傾聴力」が自分の意見を主張する（発信力）だけではなく、相手の考えを聞く力（傾聴力）を重視していることは、学士力でコミュ

### 学士力

テキスト1章4節「リエゾンゼミについて知ろう(1)目的編」参照

### 課題発見・問題解決

テキスト6章「問題解決」参照

### チームワーク

テキスト7章「チームワーク」参照

### 傾聴力

テキスト3章3節「傾聴力を高めよう」参照

コミュニケーション能力を重視していることと同じです。それは、いろいろな場面でチームワークが求められ、リーダーシップを発揮するときにも大切な能力といえましょう。さらに広く社会生活を営むなかで、「市民としての社会的責任」を果たすときにも必要な能力といえます。

その際、自分の意見を主張するという事は、相手に理解を求めるだけでなく、自分の考えを論理的にわかりやすく、ときには適切に図や表、グラフなどを用いて正確に伝えることのできる能力が必要になります。そのためには、課題を認識し、必要な情報・データを収集、分析できる批判的思考力とともに、その結果を図や表、グラフなどに表現できる能力、さらに主張の全体像を構造化できる論理的思考力、ときには創造的思考力が求められるのです。

感情的な、あるいは根拠のない主張は、相手の共感を得るコミュニケーション能力とは違うのです。

ところで、コミュニケーション能力とは、自分と相手の相互作用ですが、それはけっして言葉だけではなく、文字が用いられることも少なくありません。そのために、文章（文字）でもって自分の考えを叙述できる能力も含まれています。

あたかも 2010 年 2 月、日本経済団体連合会（「経団連」といいます）は傘下の 1283 社に新卒採用に関するアンケートを実施、425 社から回答を得ましたが、選考時に重視する要素の第一はコミュニケーション能力（81.6%）、ついで主体性（60.6%）、協調性（50.3%）と続きました。社会（企業）は、学士力に含まれるコミュニケーション能力、さらには社会人基礎力に規定される発信力・傾聴力を重視しているのです。

もちろん、大学で学ぶ「専門性」が軽視されるものではありません。ただ、大学で得た「専門性」の高い「知識」も、相手に正確に伝えられなければ、無用の長物になりかねません。コミュニケーション能力とは、専門的な知識・能力の伝達にも有為であることはいうまでもないのです。


コミュニケーション能力  
テキスト5章「コミュニケーション・スキル」参照

市民としての社会的責任  
テキスト9章8節「市民としての社内的責任を自覚しよう」参照

数量的スキル、プレゼンテーションスキル、批判的思考力、論理的思考力、創造的思考力  
テキスト3章「学習スキル」参照

ICT（情報通信技術）スキル  
テキスト4章「情報リテラシー」参照

リーディングスキル、ライティングスキル  
テキスト3章「学習スキル」参照



大学では社会人になる基礎も学ぶよ！

【社会人基礎力とは】

- ①前に踏み出す力・・・主体性・働きかけ力・実行力
- ②考え抜く力・・・課題発見力・計画力・創造力
- ③チームで働く力・・・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力